

登園許可書の提出は
必要なしです！

感染症一覧表

病名	登園許可書	潜伏期間	登園のめやす	症状	アドバイスなど
带状疱疹	不要	不定	全ての発疹がかさぶたになるまで	皮膚に小さな発疹が現れやがて水疱になります。	水痘にかかった後同じウイルスが再発しておこる病気です。他の人に水痘が感染することがあります。
手足口病	不要	3～6日	発熱や口の中の水疱の影響がなく普段の食事がとれること	口の中、手のひら、足の裏に米粒大の水疱ができるのが特徴です。	口の中の水疱が痛み、食欲不振になることがあります。こまめな水分摂取が必要です。
ヘルパンギーナ	不要	3～6日	発熱や口の中の水疱の影響がなく普段の食事がとれるまで	高熱がでて、のどの奥に小さな水ぶくれができます。	のどの水疱がひどいと水分を取るのも嫌がります。のどごしの良い食事にしましょう。
伝染性紅斑(りんご病)	不要	4～14日	全身状態が良いこと	軽いかぜ症状の後ほっぺがりんごのように赤くなったり手足に網目状の発疹がでます。	妊婦への感染が問題になります。保育園で発生した場合、送迎時に注意しましょう。
溶連菌感染症	不要	2～5日	抗菌薬内服後に24～48時間経過するまで	のどの痛み、発熱、発疹、いちご状舌など	合併症をおこさないために、症状が治まっても決められた期間、抗生剤を飲むことが大切です。
ウイルス性胃腸炎	不要	1～3日	症状が治まり普段の食事がとれること	下痢、腹痛、嘔吐、発熱	便や吐物にはウイルスが多く含まれるため塩素系消毒剤での消毒が必要です
マイコプラズマ肺炎	不要	14～21日	発熱や激しい咳が治まっていること	発熱し、咳が解熱後も3～4週間持続する	元気でもしつこい咳が続く場合は再度受診しましょう。
RSウイルス感染症	不要	4～6日	咳などの症状が治まり全身状態が良いこと	発熱、鼻水、咳、喘鳴	乳児は気管支炎や肺炎になりやすいので注意しましょう。
突発性発疹	不要	9～10日	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと	高熱が3～4日続いた後解熱とともに発疹がでます。	感染力は弱いですが、発熱中は感染力があります。
とびひ(伝染性膿痂疹)	不要	2～10日	患部が乾燥してるか覆える程度のものであること	水ぶくれから始まり、それがやぶれて赤むけの状態になります。	他児への感染を防ぐためにガーゼなどで保護して登園して下さい。治療は抗生剤の内服が基本です。
水いぼ(伝染性軟属腫)	不要	2～7週間	医師の指示に従う	1～3ミリの真ん中にくぼみのある、表面がつやつやした柔らかいイボができます。	接触感染する恐れがあります。プールの始まる前には受診をしましょう。